

ふれっそ 39号 福々刻々

昨年の11月、吉祥寺北町5丁目町会の研修旅行にお誘いを受け、同道させていただきました。行き先のひとつが足尾山地のすり鉢状の山あいにあるココファームでした。そこは「こころみ学園」(知的障害者支援施設)を母体として生まれたワイナリーで、施設に入居されている方々はぶどう栽培とワイン醸造、しいたけ栽培、山林の除伐、下草刈りなどで働きます。ぶどう畑の開墾から半世紀、ひたむきな努力の成果がそこにありました。

障害者支援施設を北町5丁目に設置することが市の計画で決まってから、私どもは1年あまり先の開所に向けて現在全力で取り組んでいるところです。地域の方々との関係づくりはもちろん、環境や枠組みを踏まえて武蔵野らしい独自のあり方を形作ることができるよう、構想したいと思います。

昨年の夏、同業者仲間と滋賀県の歴史ある入所型施設など5か所を見学し、お話を伺う機会がありました。いずれも知的障害福祉の草創期を切り開いた方々の信念や考え方が反映された施設や事業でした。前に進もうとするならボートをこぐように後ろを見て進むのが良いという言葉がありますが、戦後の厳しい社会状況の中で心血を注いで取り組まれた先達の方々にまつわるお話は心に染み入るものであり、原点の確認をした思いでした。

障害者支援施設(入所型施設)には様々な姿があります。どこにあっても支援や事業経営の課題はありますが、ご利用者の思いを受けとめその人生を支えられるよう、そして大きくは共生社会に向う姿勢を持ち続けたいと思います。

(平成30年2月)